

20会場で地域別の 市民意見交換会を開催

今年で4回目となる地域別市民意見交換会を、11月5日～11月20日までのうちの10日間、20会場で開催し、470名の市民の皆様に参加をいただきました。

現在、高山市議会は議会改革のひとつとして、委員会を中心とする政策提言に向けた活動に取り組んでいます。そこで各委員会は、政策課題を抽出し、その内容の整理と問題点解消に向けた調査・研究活動をすすめるが

ら、4常任委員会のそれぞれ課題となる事項について、市民の皆様のご意見を反映し、政策提言に活かすことを目標としています。

また、前回から課題となっていた意見交換会のあり方や議会の調査内容を知っていたため、取り組みの一環として、テーマ設定を行なった上でより幅広い意見を市民の皆様からお聞きすることが重要と考えました。

今回、皆様からいただいたご意見を基に政策に反映させることは市民の負託を受けた議会の役割であることも深く認識して行つたものです。年々、参加者は減少傾向にあります。毎年、試行錯誤を繰り返す中で市民の皆様からいただいたご意見やご提案を基に委員会の調査研究活動を探るとともに、提言した政

策については、今後さらに意見を賜りたいと思っています。

今回の市民意見交換会における委員会テーマ

- ◆ 総務企画委員会
市民協働のまちづくりを目指して
- ◆ 福祉保健委員会
地域医療について
- ◆ 文教経済委員会
観光政策の展開について
- ◆ 基盤整備委員会
自然資源を活用した新エネルギーの導入について



11月13日に行われた国府地区での意見交換会

＝ 意見概要 ＝

◆ 総務企画委員会

- 協働のまちづくりの市の考えは「地域協議会組織」を立ち上げることが示されているが、市からの諮問機関ではなく、地域特有のまちづくりに関して地域の意見を反映させることが重要。
- まちづくりは地域住民の努力で自ら行なう考え方であるが、高齢化が進み行政の支援がなければ実現できない実態もある。
- 支所地域のCATV整備については、公的資金の投入も示唆されたが、時期が明確化されていない。
- 地域審議会は存続すべきで、審議会の委員は幅広い市民の参加が求められる。
- 防災ラジオの普及は重要と認識するが、無線が入らないエリアの解消を優先すべき。
- 久美愛病院の跡地利用についての考え方は。
- 自主防災組織の人材が不足しており、情報伝達が危惧される。

◆ 福祉保健委員会

- 高根町に医師がいない。早く対応すべき。
- 団塊世代が高齢化に移行するが、高齢者福祉をどう考えるか。
- 共働きの多いため、24時間の在宅介護など総合的な施策を検討すべき。
- 市の政策は高齢者に手厚いが、現役世代には手薄さを感じる。

- 市の子育て支援は、出生率の向上に繋がっていない。
- 未婚の男女が多く、少子化対策としても検討するべき。
- 火葬場建設の用途は。

◆ 文教経済委員会

- 古い町並みが土産品町になっているのでは。
- 観光がまがりかどにきているのでは。
- 市の観光は、外国人に頼ることなく、国内観光客を重視すべき。
- アンテナショップの運営は行政の支援が不可欠である。
- 指定管理施設の管理料が減額され運営が苦しい状況で、地元雇用にも影響を及ぼす。
- カシノナガキクイ虫の害虫被害を危惧する。
- 鳥獣害対策でワイヤーメッシュはイノシシに効果はあるが、サルには加えて電柵も必要である。
- 若い人の雇用や企業誘致に力を入れるべき。

◆ 基盤整備委員会

- 小水力発電の事業を県で実施するが、発電される電力は地元に戻元されるのか。
- 高山～宮バイパスの進捗状況は。
- 市内の道路で融雪装置が作動していない状況がある。
- ゲリラ豪雨に対応するため、地下に一時貯水槽を設置できないか。
- 江名子川の改修問題を把握しているか。
- 通学路の安全確保や、地域の交通問題の解消を求める。